



徳島市民病院だより

徳島市民病院の理念
「思いやり・信頼・安心」

令和6年10月

40号

〒770-0812 徳島市北常三島町 2 丁目 34 番地 徳島市民病院広報管理室 TEL (088) 622-5121 (代表)

地域医療支援と連携強化のために

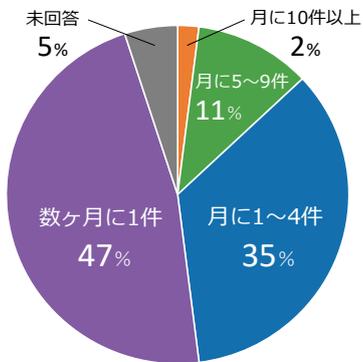
地域医療支援病院は、地域における第一線の医療機関であるかかりつけ医を支援し、連携を図る観点から制度が創設されたもので、当院は平成20年に徳島県より認定を受けました。地域の医療機関との協力体制充実や連携強化のため、市民病院では以下のような取り組みを行っています。

■ 連携病院への訪問・情報共有 ■ 共同診療の推進、連携パス運用など ■ 地域医療関係者の要望把握、改善

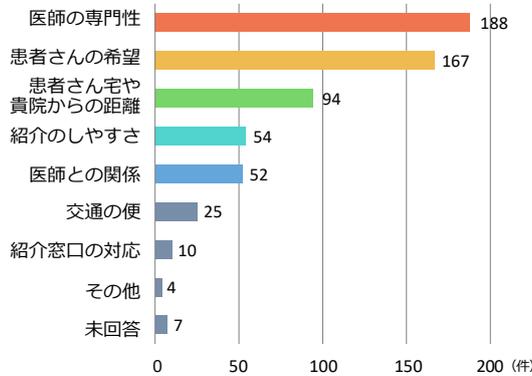
取り組みの一環である連携医療機関対象のアンケート調査については、今年度の配布数は728枚、回答数は255枚、回収率35.0%でした。調査結果は1～2ページのグラフに示すとおりです（一部抜粋）。

地域医療機関対象のアンケート調査結果（一部抜粋）

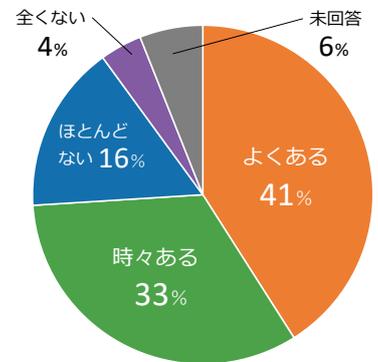
● 当院への患者さん紹介数は？



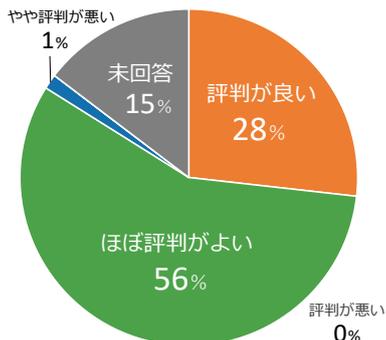
● 紹介の理由について（複数回答）



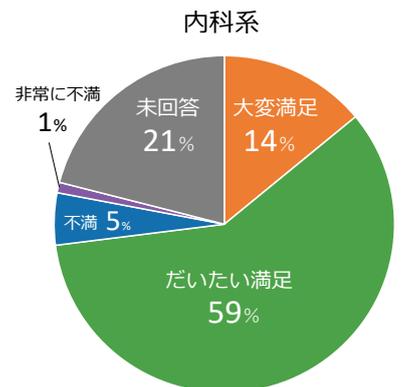
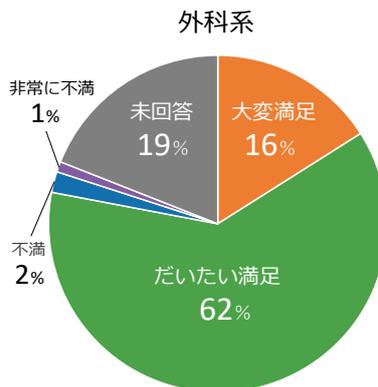
● 紹介患者さんの逆紹介は？



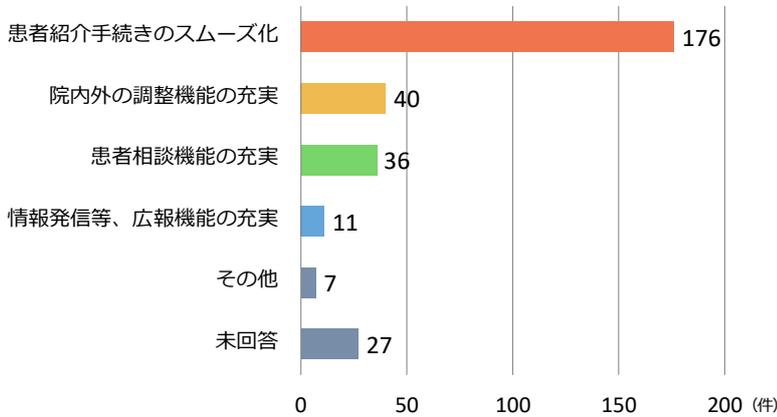
● 逆紹介患者さんの当院への評価



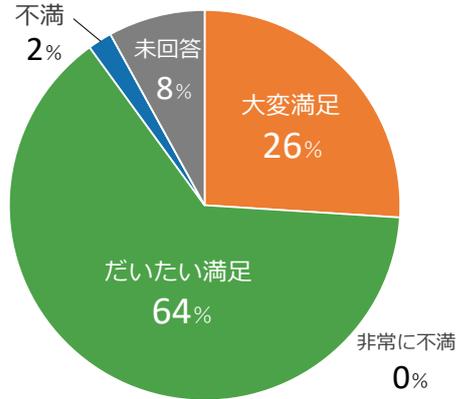
● 救急患者さんの受け入れについて



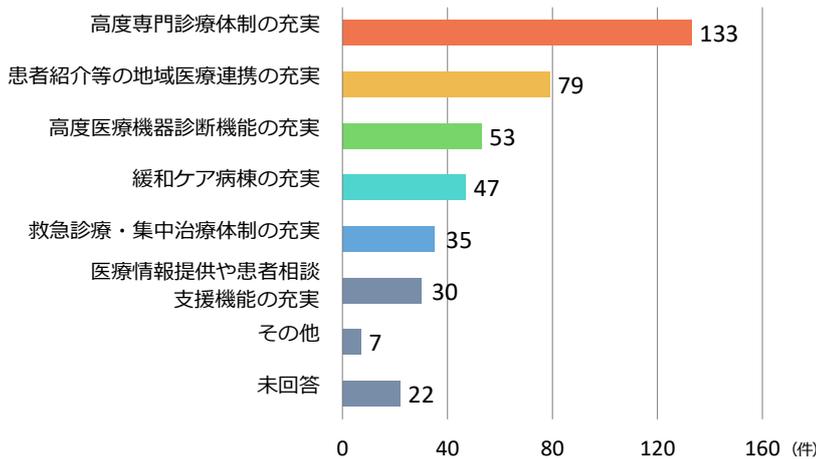
● 患者支援センターに期待することは？ (複数回答)



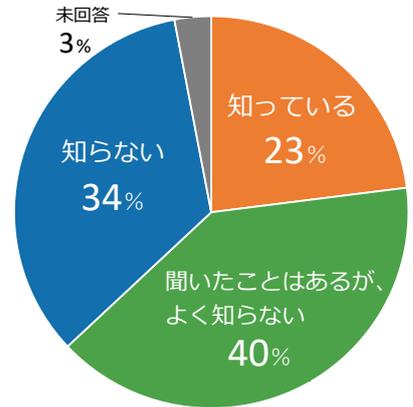
● 患者支援センターの対応について



● がんセンターに期待することは？ (複数回答)



● 「あんしんカード」*をご存じですか？



* 当院にてがん患者さんに発行しているカード

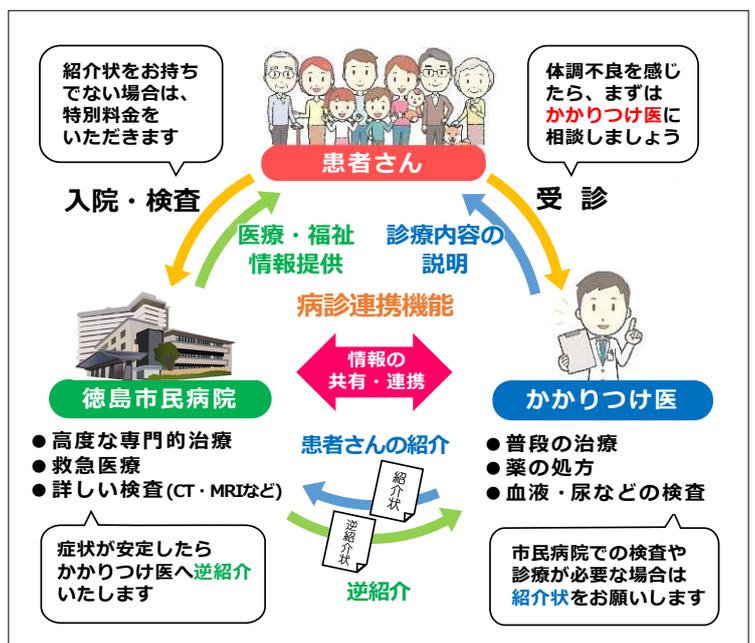
● 徳島市民病院だよりを読んだことは？



当院は、日々いただくご意見やアンケート結果を真摯に受け止め、引き続き業務改善や支援体制の充実を図ってまいります。

地域の中核的な役割を果たし、地域完結型医療の実現を目指して、今以上の連携強化に取り組んでまいりますので、今後とも徳島市民病院をどうぞ宜しくお願いいたします。

(患者支援センター 森田 敏文)



かかりつけ医療機関と当院が連携し、患者さんへ切れ目のない医療を提供

世界患者安全の日

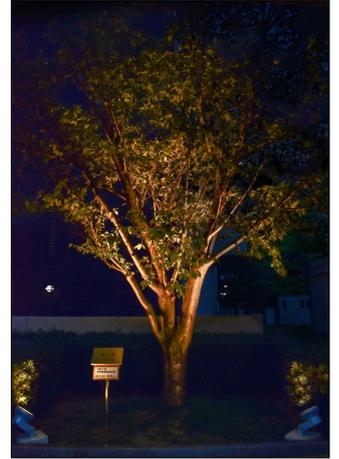
患者安全を促進すべく人々の意識・関心を高めるため、シンボルツリー『じよ怒の木』のライトアップとポスター掲示が行われました。

9月17日は「世界患者安全の日（以下、WPSD : World Patient Safety Day）」です。「患者安全を促進すべく世界保健機関（以下、WHO）加盟国による世界的な連携と行動に向けた活動をする事」を目的として、医療制度を利用する全ての人々のリスクを軽減するため、2019年にWHO総会で制定されました。

本邦においては厚生労働省が主導し、患者安全を促進することへの人々の意識、関心を高め国際的な理解を深めるとともに、各種媒体を用いて普及活動を推進しています。今年度のテーマは“Improving diagnosis for patient safety”（患者安全のための診断の向上）、スローガンは“Get it right, make it safe!”（ちゃんとやって、安全にしよう！）です。

徳島県でも徳島大学病院の呼び掛けに応え、9月17日に関係医療機関でイベントを実施することになりました。当院は患者さんやご家族、そして患者さんを支える職員の皆さんの心に安全・安心の灯火がともればとの願いを込めて、シンボルツリー『じよ怒の木』のWPSDイメージカラー・オレンジでのライトアップとポスター掲示を行いました。

なお、怒の木のライトアップは10月13日～31日：乳がん啓発月間のピンク、11月1日～17日：世界糖尿病デーのブルー、11月18日～30日：医療安全推進週間のグリーンと続いてまいります。ぜひご覧ください。（医療安全対策室 中野 朋美）



怒の木もオレンジにライトアップ

リレー企画

研修医日記

研修医2年目の瀬戸山 千紗と申します。この場をお借りして自己紹介をさせていただきます。

生まれ育ちは兵庫県ですが、その後、香川県や岡山県、中学・高校時代は広島県で過ごし、1年間の浪人では再び兵庫県に戻り、大学入学を機に徳島へ家族と共に参りました。

学生時代は中学・大学では卓球部、高校ではダンス部と数学研究部に所属していましたが、3歳～17歳までクラシックバレエをしており、中学・高校ではほぼ毎日レッスンに通っていたため、そちらに重きを置いた生活をしておりました。趣味は推し活で、東方神起のファン歴15年目です。コンサートツアーの際は東京から福岡まで、行ける時は一緒に日本を巡っております。

私は市民病院の挨拶が飛び交う温かい雰囲気が好きで、研修病院に希望させていただきました。初期研修の2年間では救急外来の初期対応や基本的手技をしっかりと身につけ、3年目以降の後期研修に繋げられる土台を作ることが目標です。

初期研修医となり約1年半が経ちましたが、私はまだまだ勉強不足で至らない点が多く、先生方やコメディカルの方々には特にご迷惑をおかけしております。

ですが、何事も長く続けられるタイプであると自負しておりますので、日々精進していく所存です。今後もご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

（初期臨床研修医 瀬戸山 千紗）



初めまして、臨床研修医の千頭 仁志と申します。令和5年4月から徳島市民病院で研修をさせていただいております。今回この場をお借りして、簡単に自己紹介させていただきたいと思います。

僕の珍しい苗字は、“ちかみ”と読みます。出身は大阪なのですが、高知県の苗字のようです。初見の人に正しく呼ばれたことはなく、“せんどろ”、“せんず”、“ちとろ”、“ちがしら”など、間違い方も様々です。そちらの方が慣れていきますので、むしろ違う読み方で覚えてくださって構いません（笑）。そんなことを言っていたら、院長からは“せんどろ君”と呼ばれるようになりました。苗字をきっかけに、院内の皆さんにもぜひ覚えていただけると嬉しいです。

そんな“せんどろ君”ですが、休日は大体、同期、後輩や先輩と飲みに出かけています。入職時より体重が6キロほど増えて、スクラブがバツバツで苦しいので助けてください。他にも元々ゴルフ部であり、ゴルフ（ベストは83ですが、最近は何もかも忘れ100～120くらいです）をしたり、ボウリング（ベストは脅威の278です）をしたり、ベンチプレス（年内100キロを目指してます）をしたりと趣味が沢山あります。何でも気軽に誘ってくださると喜んで参加させていただきますので、よろしくお願いいたします。

最後に、まだまだ未熟で至らない点も多々ありますが、日々精進していきたいと思っておりますので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

（初期臨床研修医 千頭 仁志）



10月1日付で内科に2名（榎原 孝典医長、芳川 明奈医長）、
整形外科に1名（吉田 岳人医員）の医師が着任しました。

新任医師ご紹介



内科医長
榎原 孝典

徳島大学病院から来ました、榎原孝典と申します。

消化器領域のお悩みに関して解決できるよう、全力で診療にあたらせていただきます。よろしくお願いいたします。



内科医長
芳川 明奈

初めまして、消化器内科10年目の芳川 明奈です。異動前は鳴門病院で勤務しておりました。至らぬところも多々あるとは思いますが、皆様とともに医療に貢献できれば幸いです。よろしくお願いいたします。



整形外科医員
吉田 岳人

10月より勤務しております、整形外科の吉田と申します。至らぬ点多くありご迷惑をおかけすることと思いますが、精一杯頑張ります。

3ヶ月という短い間ですが、何卒よろしくお願いいたします。

徳島ローカルDMAT 派遣に関する協定締結

9月17日、徳島県は当院を含む県内16の医療機関と協定を結び、大規模災害発災時に「徳島ローカルDMAT」を医療現場へ派遣することを決定しました。

「徳島ローカルDMAT」は当県における災害派遣医療チームであり、8月に行われた研修では新たに3名の職員が隊員として登録されています。皆さんに研修時の体験や今後の目標、課題等について聞きました。



協定締結式に出席した
中野 俊次院長（右・奥）

8月17日・18日の2日間、徳島DMAT（ローカルDMAT）研修に参加し、無事隊員となりました。研修においては、トランシーバーや広域災害救急医療情報システム（EMIS）の操作に戸惑い、机上でのシミュレーション演習や総合演習では同じ班の人達に助けをもらいながら、CSCATTTを合言葉に取り組みました。

終わってみればあっという間の2日間でした。今後は院内災害訓練にも携わり、DMAT研修や活動に繋げていきたいと思ひます。
（救急室 看護師 久田 加容子）

徳島ローカルDMAT研修に参加する機会をいただき、ありがとうございました。災害拠点病院に勤務していながら、実際の災害時の活動について深く知ることは初めてだったので、2日間の研修ではたくさんの学びがありました。良い勉強になっただけで終わらないために、今後は院内外問わずDMATの活動を広め、自分自身も災害時に責任を持って迅速に活動できるよう、尽力したいと思います。
（10階病棟 看護師 吉田 賢斗）

8月17日・18日に実施された徳島ローカルDMAT研修に参加して、災害医療の難しさを痛感しました。災害時の混乱している最中に情報収集方法の確立、必要な情報の選定、必要物資の要請などを考え、行動に移すまでのスピードがとても大事なのだと思いました。この2日間で学んだことを今後の研修で活かし、周囲の方に頼られるDMAT隊員になれるように励んでいきたいと思ひます。
（医事経営課 業務調整員 續 敬介）